

第3節 中学校 社会科

1 はじめに

(1) 社会科における言語活動とシティズンシップ教育について

ア 学習指導要領における言語活動の位置付け

『中学校学習指導要領』では、社会科の各分野に共通する目標として、各分野に関する事象について「多面的・多角的に考察し」、「適切に表現する」能力や態度を育てることが掲げられている。また、公的分野の内容の取扱いには、「社会的な事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を養うこと。また、考えさせる場合には、資料を読み取らせて解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせたりするなどの工夫をすること。」と示されており、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動を充実することが求められている。

イ 社会科におけるシティズンシップを育む教育の現状と課題

『平成26年版 子ども・若者白書』（以下『子ども・若者白書』という。）には、「社会の一員として自立し、権利と義務の行使により、社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けるため、社会形成・社会参加に関する教育（シティズンシップ教育）を推進すること」の必要性が述べられている。

これまでも学校教育では、子どもの発達段階に応じて、社会形成・社会参加に関する内容が指導されてきたが、現行の学習指導要領からは、民主政治や政治参加、法律や経済の仕組み、勤労の権利と義務、消費者教育等、社会参加の視点が重視され、「社会生活を営む上で大切な法やきまり」（小学校）、「契約の重要性」（中学校）、「国民の司法参加」（小学校・中学校・高校）を新たに扱うことになった。また、文部科学省では、平成25年度に「中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究」が実施され、主権者としての自覚と社会参画の力を育むために体験的・実践的な学習を行うためのプログラムが開発されている。さらに、経済産業省では、「市民一人ひとりが、シティズンシップを発揮し、社会との関わり合いを通じて、自分たちを守り、豊かな生活を実現し、自己実現し、また、よりよい社会づく



図1 シティズンシップを発揮するために必要な能力の全体像

「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書」 経済産業省より

りに参加するために必要となる多様な能力」を、「意識」、「知識」、「スキル」に分類して示している（図1）。

一方、『子ども・若者白書』には、社会問題への関与や自身の社会参加について、日本の若者の意識は、調査のあった諸外国と比べて、相対的に低く、「社会をよりよくするため、社会問題に関与したい」と思っている日本の若者の割合は4割強、同様に「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」と思っている割合は約3割となっている現状も報告されている（図2、3）。

(2) 研究のねらい

本研究では、社会科においてシティズンシップを発揮するために求められている知識を習得していく過程で、図1で示している「自分自身に関する意識」や「他者との関わりに関する意識」、「社会への参画に関する意識」の醸成、さらに「自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル」、「情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル」、「他者とともに社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定して実行するためのスキル」を育成していくことが、中学校社会科公民的分野における生徒の主体的・能動的に学ぼうとする力の育成と密接につながっていると考えた。

さらに、シティズンシップを発揮するために求められている知識の習得と意識の醸成、スキルの育成のためには、協働的・双方向的な学びが有効な手立てになると考えた。協働的・双方向的な学びを進めるためには、言語活動の充実が不可欠である。とりわけ、シティズンシップの育成に関わる題材をもとにしたグループ活動の中で、自他の考えの違いを認識させ、考えを深化させていくことが、生徒の主体的・能動的に学ぼうとする力の育成に有効であり、社会科の目標である公民としての必要な基礎的素養を培うことにつながると考えた。

そこで本研究では、研究仮説を「単元計画の中にシティズンシップの育成に関わる題材をもとにした協働的・双方向的な学びを取り入れ、生徒の主体的・能動的な学びを促進することにより、生徒の社会に参画しようとする意識を高めたり、スキルを育成したりすることができる。」とし、シティズンシップの育成に関わる題材に協働的・双方向的な学びを取り入れた授業実践を通して、生徒の主体的・能動的な学びの変容を検証する。

(3) 研究方法

ア 研究期間 平成26年5月～12月

イ 研究対象 斑鳩町立斑鳩中学校 第3学年1組～4組 計140名

ウ 研究内容

- シティズンシップ教育で求められる力を育成するための協働的・双方向的な学びを取り入れた授業実践の検討及び考察
- プロジェクト1共通の質問紙調査と社会科独自の追加質問項目、生徒の記述内容の分析

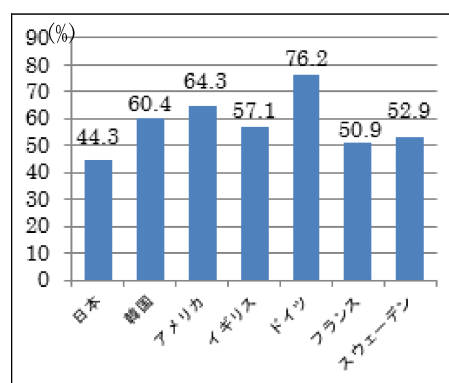


図2 社会の問題に関与したい
『子ども・若者白書』より

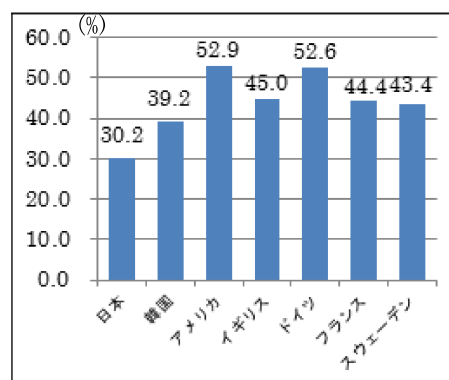


図3 社会現象が変えられるかもしれない
『子ども・若者白書』より

2 協働的・双方向的な学びを取り入れた授業実践と考察

本研究におけるグループ活動の中に協働的・双方向的な学びを取り入れた実践では、生徒個人に発表者の意見を記録させ、自分の意見と同一の意見や対立した意見を明確に整理させた。話合いのポイントを認識させることでグループ活動の活性化を図り、自分の考えを深化させられるように留意した。

グループ学習を取り入れた授業実践のうち、3事例を以下に示す。「内容」の項では、グループ学習を導入したねらいとその内容を示す。なお、使用教科書は、『社会科中学生の社会』（帝国書院）である。

(1) 事例1

ア 単元名 「よりよい社会をめざして」

(1) 私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方（全1時間）

イ 実施月 6月

ウ 形態 3～4人の9グループ

エ 単元のねらい

公民的分野の導入時に実施する。「物事の決定の仕方」などの社会生活に見られる問題について、身近な事例を読み取らせて、その解決方法を多面的・多角的に考察させる。その上で現代社会をとらえる見方や考え方の基礎となる、「対立と合意」、「効率と公正」の概念を理解させる。また、人と違う意見を述べることに對して躊躇させない学習環境づくりを行う。

オ 内容

「マンションの騒音問題」を題材にして、3～4人のグループにそれぞれ住民の役を割り当て、資料に基づいてロールプレイングを実施させた。まず個人で騒音問題についての問題点とその解決方法をまとめさせた上で、「対立と合意」、「効率と公正」の概念について理解させるため、グループ学習を導入した。さらに、グループで話し合った内容を画用紙にまとめて発表させ、最後にグループでの話合いや発表を聞いた上での自分の考えを改めてまとめさせた（図4）。



図4 解決方法をグループでまとめる様子

なお、グループ学習が協働的・双方向的な学びになるよう、他者の意見をワークシートに記録させて、話合いにおける論点を整理させるとともに、以下の手順で話合いを進めるよう指導した。

- 1 司会者と発表者を決める。
- 2 司会者は一人ずつ意見を聞く。
- 3 発表者は、前の発表者の意見にコメントしてから意見を言う。
- 4 発表を聞くときには、うなづくなど聞く姿勢を工夫する。

カ 授業実践からの考察

今回の授業では、騒音問題の解決に対して、マンションの住人になりきって考えるのか、第三者として考えるのか、わかりにくい曖昧な指示を出してしまったため、話合いが進まなかったグループがあった。また、生徒が課題に対して1つの答えを書く学習の形態に慣れているため、自

分や他人の意見を自由に書き留めていくワークシートの形式にとまどっていた場面があり、ワークシートの使い方について多くの質問が出た。さらに、話合いの前提として理解していなければいけない騒音問題の原因を把握しないまま、グループ学習に参加している生徒がいるなど、話合いが深まっていないグループも見られた。

この授業から見えた課題として、①課題を明確化し、話合いの焦点をはっきりさせること、②話合いの論点をはっきりさせるために、自分と他人の意見を書き込みやすいワークシートを作成すること、③話合いの前提となる基礎的な内容や背景について、事前に確認させること、の3点を確認できた。

生徒の感想には、「自分とは違った意見が出ているので、話合いは大事だと思った」や「話合いによって意見をまとめるのは難しいと思った」、「みんなの意見を聞いてルールを決めるというのはいいと思った」など、話合いを通して、自分の意見と他者の意見の相違に気付いたり、互いの意見を合意形成したりすることの意義を実感しているものが見られた。

(2) 事例2

ア 単元名 「判決を考えてみよう」

(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加 (全6時間)

イ 実施月 10月

ウ 形態 3～4人の9グループ

エ 単元のねらい

国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判が保障されていることについて理解させる。その際、法務省作成の「模擬裁判シナリオ」を利用して、裁判員制度に関する有用な情報を適切に読み取り、裁判そのものに真剣に向き合わせ、裁判員制度の意義、国民の司法参加の意義を考察させる。その過程で法に対する関心を高め、意欲的に自らの考えを深めさせる。

オ 内容

授業では、法務省が企画・作成のDVD「裁判員制度ーもしもあなたが選ばれたらー」を視聴し、裁判員制度と裁判員の役割について概要を理解させてから、法務省作成の「模擬裁判シナリオ」を使い、代表者5名を裁判官・弁護人・被告人・検察官・証人役に配役してロールプレイングを実施した。他の生徒には裁判員の立場でシナリオに沿って取り上げられる証拠品や証言についてメモを取りながら、有罪、無罪のいずれの証拠となり得るかを証拠カード等をもとに検討させた(図5)。さらに、裁判員として証拠を検討する際に気を付けなければならない点も考えさせた。



図5 それぞれの証拠カードをグループで検討をする様子

論理的に考えて個人の意見を形成させた上で、グループ学習を導入し、他者の意見に対して、資料をもとに合意、反論の意見を出し合い、効率と公正の概念を取り入れながら合意形成していくよう指導した。(資料1-1～資料1-5参照)。

カ 授業実践からの考察

裁判員制度に関する事前の意識調査では、肯定的な意見は少なく、裁判員になることで仕事に支障が出てしまうことや少ない法律の知識で人を裁くことへの懸念、さらには、制度自体への無

関心を示す意見が目立った。

DVDの鑑賞後の記述には、「裁判員制度について詳しく理解できた」という意見がある一方で、裁判員として人を裁くことの難しさを感じ取っている意見が多く見られた。模擬裁判後、グループでの話し合いで、証拠を示した複数のカードをそれぞれ有罪と無罪に判断して分類させた際には、意見の対立する場面が多くみられ、人によって判断基準が大きく異なる場合があることを実感している様子が見られた。また、グループで判決を下す場面では、対立した意見をまとめることに苦勞するグループが見られる一方で、全員の意見を直ちに一致させたグループも見られた。最終的にクラスでの判決を下す場面では、グループで意思決定された意見をもとにして、無罪としたグループと有罪としたグループとの間で活発な意見交換が行われた。

実践後の意識調査では、事前の意識調査の段階で裁判員制度に否定的な考えをもっていた生徒の一部に、「裁判員制度によって、事件を見つめ直し、えん罪が減るのではないか」、「事件は自分たちの生活に無関係ではない」などの肯定的な意見への変容がみられた。また、裁判における争点を判断していくことや人を裁くことに対しては百者百様の考え方があり、判決を下すことの難しさを実感した内容の記述が多く見られた。

今回の授業における話し合い活動は、裁判員制度という題材の性質上、自ら考えて出した意見と他者の意見が対立した場合、相手に自分の結論を論理的に説明していく場面が多くなった。話し合いが活性化したのは、自ら考えた結論をもって討議に臨ませたためであると考えられる。また、このように対立した意見が出やすい題材では、主張が明確になりやすく、自分の意見が述べやすいようであった。

また、グループ活動後には毎回、活動の様子について、5点満点で自己評価を行わせたが、この題材を扱ったときには「自分が話すときに友達が述べたことを取り入れて発言した」の項目の評価が低くなった。有罪か無罪かという結論を出す設定上、生徒にとっては、自分で練り上げた意見で相手を論破することに主眼が置かれがちになり、人の発言を取り入れて発言したり、互いの意見から学び合ったりすることが難しかった題材であったと考えられる。

(3) 事例3

ア 単元名 「まちの活性化プランナーになってみよう」

(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加 (全6時間)

イ 実施月 11月

ウ 形態 3～4人の9グループ

エ 単元のねらい

地方公共団体の政治の仕組みや地方自治の基本的な考え方について理解させるとともに、「第4次斑鳩町総合計画」のリーフレット等から有用な情報を読み取り、そこから斑鳩町を活性化させる事業案を検討させる。その過程で地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。

オ 内容

「第4次斑鳩町総合計画 まちづくりアンケート集計結果報告書」の住民の意識調査について考察させた後、「斑鳩町統計書 平成25年度版(2013年度)」から、各グループごとに斑鳩町の課題について読み取ったことをグラフで表現し発表させ、斑鳩町の抱える問題点を共通認識させた。また、各家庭等で斑鳩町の課題について聞き取らせた。次に「第4次斑鳩町総合計画」の基本目標の一つである「活力とにぎわいのあるまちづくり～産業・観光の振興～」で実施されてい

る事業についての検証を行わせた上で、新たに観光の振興に視点をおいた、まちづくりのための事業案を作成させた。事業案は、まず個人で作成させた後、グループで意見を選択や統合、精選させ、1つの案にまとめさせた。

さらにグループでは、それぞれまとめた提案をクラス全体に効果的に伝えるために、発表内容および発表方法を検討させた。クラスにおけるグループの事業案の発表では、各グループから出された提案をクラス全体での話し合いや質問を通して、数案に統合、精選して、まとめあげていくという合意形成の過程を重視した。なお、個人案やグループ案の発表の際には、発表者の意見をメモさせ、話し合いの内容を焦点化させた（図6）。



図6 各班の提案を発表している様子

各クラスで発表された36の事業案は斑鳩町都市建設部環境産業課に提出し、担当の方々から評価を頂いた。単元の指導計画の詳細は以下の通りである（資料2参照）。

各クラスで発表された36の事業案は斑鳩町都市建設部環境産業課に提出し、担当の方々から評価を頂いた。単元の指導計画の詳細は以下の通りである（資料2参照）。

カ 単元の指導計画

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
単元 の 目 標	自分の住むまちを題材として、地方公共団体が果たしている役割に対して関心を高め、それを意欲的に追究することを通して、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を培う。	地方公共団体が果たしている役割について、自分の住むまちを題材とする様々な事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。	自分の住むまちを題材として、地方公共団体の政治の仕組みに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読み取ったり図表などにまとめたりする。	自分の住むまちを題材として、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組みについて理解し、その知識を身に付ける。
単元 の 評 価 規 準	地域社会における現実の政治や地域社会に生きる一員として他の人々と共に営む社会生活に対する関心が高まっている。	地域社会の具体的な課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地方公共団体の政治の仕組みなど様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、地方自治が、住民参加による住民自治が基本であることを理解し、その知識を身に付けている。
第1時： 斑鳩町の住民の願いとは？～地方自治のしくみを知ろう～				
評価 規 準	(知) 斑鳩町を題材として、地方公共団体の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み・地方自治について理解し、その知識を身に付けている。 (技) 斑鳩町が実施したアンケートから、住民が安心・安全に暮らすことができる願いをもっていることや現在の斑鳩町の課題を読み取っている。			
授業 の 概 要	★本時は、斑鳩町を題材にして地方自治を学ぶに当たり、事前意識調査を行う。 1 斑鳩町が平成20年に町民に対して取ったアンケートのうち「あなたは、将来の斑鳩町がどのような『まち』であってほしいと思われますか？」などの項目につ			資料2-1 (事前意識調査)

	<p>いて事前意識調査を行う。</p> <p>2 アンケート結果を予測させ、その予測と実際のアンケート結果を比較させる。</p> <p>3 斑鳩町民が安心安全に暮らせるまちを望んでいることを確認した上で、現段階で斑鳩町について考えたことや思ったことをまとめさせる。</p> <p>4 地方自治が民主主義の学校とよばれ、直接民主制がとられていることや、議決機関と執行機関のしくみと関係について理解させる。</p> <p>5 斑鳩町役場の部局課に注目し、公共サービスの提供について理解させる。</p>	資料2-2
第2時： 斑鳩町の財政を見てみよう		
評価 規準	<p>(思) 斑鳩町の財政を題材にして、地方公共団体における財政の課題を見出し、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>(技) 斑鳩町の平成26年度予算案の歳入の財源と歳出の項目から斑鳩町の財政の様子を読み取っている。</p>	
授業 の 概要	<p>1 斑鳩町の平成26年予算案から主な歳入と歳出の内容を読み取らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歳入の項目に注目させ、自主財源と依存財源に分類させる。また、歳入全体における依存財源や町債の割合について考察させる。 ・ 歳出の項目に注目させ、民生費の割合が大きいことや商工費の割合が少ないことなどを読み取らせ、少子高齢化による医療費の増大などがその原因の一つであることを気付かせる。 </div> <p>2 地方公共団体における財政の問題点を斑鳩町の財政を通じてまとめ発表させる。</p>	<p>平成26年度の斑鳩町の予算案（広報より）</p> <p>資料2-3</p>
第3時： 私たちの直接請求権		
評価 規準	<p>(技) 直接請求権に必要な署名数を算出し、住民の意思を反映させる権利や手段について読み取っている。</p> <p>(知) 地方自治における直接請求権とその内容について理解し、その知識を身に付けている。</p>	
授業 の 概要	<p>1 地方自治では直接民主制がとられ、住民には直接請求権が認められていることを理解させる。</p> <p>2 直接請求権の内容である条例の制定・改廃や首長・議員のリコール、直接請求権の行使のしくみなどを理解させる。</p> <p>3 直接請求権の必要署名数を算出させ、地方自治における住民の意思を反映させる権利や手段について読み取らせる。</p>	資料2-4
第4時： 斑鳩町の政策や現状を知ろう！		
評価 規準	<p>(技) 「斑鳩町統計書 平成25年度版」から有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりできる。</p> <p>(思) 作成したグラフから考察した内容を適切に表現している。</p>	
授業 の 概要	<p>1 現在進められている「第4次斑鳩町総合計画」のパンフレットから、住民の協働による町づくりが行われていることを読み取らせる。</p> <p>2 【グループ】 9グループに分かれ、斑鳩町の現状を知るため、「斑鳩町統計書 平成25年度版」からそれぞれ、斑鳩町の人口・外国人登録・年齢別人口・流動人口・産業別就業者数・観光自動車駐車場利用状況・観光会館の資料状況・観光客数・拝観客数の年度別推移を読み取り、棒グラフや円グラフを作成させる。</p> <p>3 【クラス全体】 各グループで考察してグラフにまとめた内容を発表させ、斑鳩町が抱えている課題について共通認識させる。</p> <p>4 次時までまでに各家庭で現在の斑鳩町が抱えている課題を開き取ってくるよう指示</p>	<p>「第4次斑鳩町総合計画」のパンフレット</p> <p>「斑鳩町統計書 平成25年度版」データ（抜粋）紙</p> <p>・色ペン</p> <p>資料2-5</p>

	する。	
第5時： 斑鳩町を活性化させるために・・・		
評価 規準	(思) 斑鳩町の観光に関わる具体的な課題を見だし、現在の事業に加えて、対立と合意、効率と公正の視点を踏まえた新たな事業案を提案することができる。 (技) 「第4次斑鳩町総合計画」の基本施策から、現在実施されている事業について有用な情報を適切に読み取っている。	
授業 の 概要	1 奈良県の観光の現状について奈良県観光局観光産業課ウェブページより読み取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県への観光客のほとんどは近畿圏（特に大阪府）の日帰り客が多い。 ・観光客はお金もあまり使わずに帰ることが多い。 ・斑鳩町を含むエリアは周辺エリアと比較し、観光客数が減少してきている。 </div> 2 「第4次斑鳩町総合計画」のまちづくりの基本施策のうち、「活力とにぎわいのあるまちづくり」（産業・観光の振興）に焦点をあて、現在行われている事業を読み取らせる。 3 これらの事業から1つ選んで、家庭等で聞き取ったことを参考にして、個々で事業を活性化させる案を作成させる。 4 【グループ】 それぞれの事業案を発表させた上で、財政等の問題に視点を当て、意見を選択や統合、精選させて1つの事業案を作成させる。話し合いの際には、他者の事業案についてメモを取るよう指示する。 5 【グループ】 次時の発表内容を考えさせる。発表内容は、斑鳩町の問題点・提案の具体的な内容・提案のデメリットの3点を含めるよう指示する。	奈良県観光局観光産業課Webページ資料 「第4次斑鳩町総合計画」のパンフレット 資料2-6 発表用シート 発表原稿用紙
第6時： 斑鳩町に提案をしよう！		
評価 規準	(思) 各グループの発表に対する自分の意見を、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、まとめて表現することができる。 (関) 地域社会における現実の政治や地域社会に生きる一員として、自分たちの住むまちをより善くするため、他者の意見を取り入れながら自分の意見を再構築し、他の人々と共に営む社会生活に対する関心を高めている。	
授業 の 概要	★本時は、発表された各グループの提案を話し合いを通して、クラスの代表案として教案にまとめさせる。 1 【グループ】 前時に作成した斑鳩町への提案の発表準備をさせる。 2 【クラス全体】 各グループで発表をさせる。その際、個々で各グループの発表内容についてメモをするよう指示する。 3 【クラス全体】 各グループで発表されたものから、話し合いにより良かった3案を選ばせる。 全グループから支持の多かった3案を抜粋させる。 作成した3班から再度、事業案について提案をさせ、提案に対して賛成や修正の提案、実施への疑問等の個人の意見を述べさせ、抜粋された3案の実行性についてクラス全体で検討を行わせる。 4 【クラス全体】 提案や意見を受けて、クラスで教案を選定させる。 5 個人で、クラス全体での話し合いを通して、合意形成に至った過程について振り	発表用シート 発表原稿用紙 資料2-6

キ 授業実践からの考察

生徒たちは地方自治の単元を学ぶ前に、わが国の政治について学習し、少しずつ政治に興味をもち始めているようであったが、まだまだ政治を身近なものとして感じ取れていない実態が見られた。しかし、自分たちが住む斑鳩町について事前の意識調査を実施したところ、斑鳩町をより良くしたいという意見が多く見られた。意見は地元の世界遺産である法隆寺等の活用や、ゴミ問題、道路整備など多岐にわたり、日頃の生活に直結する自分たちのまちについての関心の高さがうかがえた。

今回の授業では、斑鳩町の現状を確認させながら、斑鳩町の資産ともいえる観光に注目して具体的な提案を作成させた。現在進行している事業案に検討を加えることで、夢見るだけの提案ではなく、若者らしい発想をベースにした現実的な提案ができたと考える。

今回は、グループの話し合い活動を通して事業案を構築していく、いわば創作型の学習活動であった。複数の提案をまとめて、より良いものに精選していくことができるのかと心配したが、どのクラスでも事業案に対する賛成の意見や問題点、修正案、さらには複数の事業案を統合する意見などが積極的に飛び交い、「合意と対立」、「効率と公正」の概念に基づいた話し合いが行われ、生徒自身が各提案に対する理解を深めつつ、自分たちが住むまちへの関心を高められたと考える。

一方、意見を的確に伝えられる生徒の意見が優先され、うまく発言できない生徒の意見が反映されないグループもあった。しかし、発言できなかった生徒の振り返りワークシートの記述に、「他者の意見や話し合いを聞いて、自分の考えが変わっていった」というものが見られ、話し合いの機会が個々の考えを深める機会になっていたと考える。

事後の意識調査では、「大人ばかりに任せるのではなく、町民である私たちが考えていく必要がある。これが“自治”というものだ」という記述もあり、話し合いを通して、自分たちの住むまちづくりへの参画の態度が醸成されたことを実感した。

各クラスで発表された36の事業案は、斑鳩町都市建設部環境産業課に提出し、担当者から評価を頂いた。提出した事業案は、本年度に取り組みされている事業や来年度以降に計画されている事業に似通った内容が大半であり、新たに採用されそうなものはなかった。しかしながら、このことは、逆に、現状を把握しながら検討を加えて作成した事業案が妥当なものであったとも言えるのではないかと。

今回の取組は、生徒たちの地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる一助になったと考える。斑鳩町ではかねてより中学生を対象に子ども議会を開催してきているが、これを契機に地元の若者との更なる協働の在り方が模索されることを期待する。

3 分析と考察

(1) 質問紙調査

質問紙調査は、プロジェクト1および言語活動の充実に関わる共通の34項目に加え、第1回事後調査（9月）、第2回事後調査（12月）では、協働的・双方向的な学びの状態、社会参画への意識に関わる次の項目を追加して実施した。質問紙調査の回答については、「とてもそう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「まったく思わない」の中から一つ選ぶ4件法を採用した。また、上述の順に4、3、2、1点（逆

転項目はこの反対)と点数化し、統計的な処理を行った。

◎第1回事後調査、第2回事後調査における追加項目

- 35 意見を発表することで、自分の考えが深まることがある。
- 36 話し合う活動では、しっかりと自分の意見を発表している。
- 37 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- 38 他の人の意見を聞いて、それに対する自分の意見を発表している。
- 39 グループ学習など、意見を発表しあう学習の機会は、増えて欲しいと思う。
- 40 自分が意見を発表することで、他の人の考えが深まったり、広がったりしていると思う。

(37)の質問項目は、「全国学力学習状況調査」の生徒質問紙から、協働的・双方向的な学びの状態を測定する項目として抜粋し、(37)を除く(35)～(40)の質問項目は、研究員が作成した。

◎第2回事後調査における追加項目

- 41 社会をよりよくするため、社会問題に関与したい。
- 42 自分の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない。
- 43 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
- 44 地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある。

(41)・(42)の質問項目は、『平成26年版子ども・若者白書』から(図2・3)、(43)・(44)の質問項目は、「全国学力学習状況調査」の生徒質問紙から、それぞれ社会参画への意識を測定する項目として抜粋した。

(2) 因子分析と因子間の相関

本調査で質問した44項目について、その尺度構成を確認するため、因子分析を行った。

その結果、カイザー基準から、12因子構造と考えるのが妥当と判断し、分析を進めた。また、すべての質問項目が、主体的・能動的な学びに何らかの関連をもつと考えられることから、主因子法のプロマックス回転を採用して分析を行った。その際、因子負荷量が3.0に満たない項目(質問番号21)を削除した。また、第六因子と第七因子の両方に近似の負荷量を持つ(27)の質問項目については、下位尺度の解釈可能性の観点から第七因子に位置づけた。因子分析後の因子負荷量を別表1に示す。

第一因子は、「自分から勉強にとりくんでいる」など自発学習や挑戦行動、深い思考に関する項目で構成されていたため「自ら学ぼうとする意欲」と命名した($\alpha=0.869$)。第二因子は、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」など自分の考えを表現することに関する項目で構成されていたため「表現に対する自信」と命名した($\alpha=0.757$)。第三因子は、「わからないことはとことん調べている」など情報を収集しようという態度に関する項目で構成されていたため「情報収集」と命名した($\alpha=0.757$)。第四因子は、「社会をよりよくするため、社会問題に関与したい」など社会問題への関与に関する項目で構成されていたため「社会への関与」と命名した($\alpha=0.716$)。第五因子は、「自分の意見を発表することで、他の人の考えが深まったり、広がったりしている」など協働的・双方向的な学習への肯定感に関する項目で構成されていたため「協働的・双方向的な学びへの肯定感」と命名した($\alpha=0.721$)。第六因子は、「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている」など協働的・双方向的な学びの状態に関する項目で構成されていたため「協働的・双方向的に学ぶ環境」と命名した($\alpha=0.769$)。第七因子は、「自分が持っている能力を十分に発揮したい」など有能さへの欲求に関する項目で構成されていたため「有能さへの欲求」と命名した($\alpha=0.724$)。第八因子は、「社会の勉

強は大切だ」など社会科の学習に対する学習意欲に関する項目で構成されていたため「社会科に対する学習意欲」と命名した ($\alpha=0.783$)。第九因子は、「いろいろなことを学ぶことは楽しい」など学習に対する面白さと楽しさに関する項目で構成されていたため「面白さと楽しさ」と命名した ($\alpha=0.744$)。第十因子は、「むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない」など自らの力で学ぼうとする状態に関する項目で構成されていたため「独立達成」と命名した ($\alpha=0.692$)。第十一因子は、「勉強面では友だちからたよられていると思う」など他者から頼られる有能感に関する項目で構成されていたため「有能感」と命名した ($\alpha=0.719$)。第十二因子は、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」など社会への関心に関する項目で構成されていたため「地域や社会への関心」と命名した ($\alpha=0.685$)。

以上の12の因子構造と質問項目を整理したものは、別表2に示す。

次に、各因子間の相関分析を行い、ピアソンの積率相関係数を算出した結果、それぞれのすべての因子間において、1%水準で有意(両側)な正の相関が見られた(別表3)。また、12因子の間のそれぞれの相関、全66通りの組み合わせのうち、50の因子間で中程度の相関が見られた。

(3) 対応のあるt検定からの分析

事前調査と第2回事後調査の結果について、共通部分である1~34の質問項目でt検定を行い、5%水準で有意(両側)な差が見られたのは、表1に示す16項目であった。

また、有意な差があった16項目の平均値は、事前調査から第2回事後調査にかけていずれも増加している(表2)。

表1 t検定の結果、対応のあるサンプルに有意な差があった質問項目

no	質問項目	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両側)
		平均値	標準偏差	平均値の 標準誤差	差の 95% 信頼区間				
					下限	上限			
2	人の役に立てようになりたい。	-1.1029	.65175	.05589	-2.2082	.00023	-1.974	135	.050
5	むずかしい問題にであうとよりやる気がでる。	-2.1324	.83806	.07186	-3.5536	-.07111	-2.967	135	.004
11	疑問に思うことは、わかるまで調べたい。	-2.2222	.83458	.07183	-3.6429	-.08016	-3.094	134	.002
12	自分もっている能力をじゆうぶんにはつきしたい。	-2.2059	.86659	.07431	-3.6755	-.07363	-2.969	135	.004
15	今までより、むずかしい問題にとりくむことが多い。	-2.4265	.93092	.07983	-4.0052	-.08478	-3.040	135	.003
16	学校で勉強したことが正しいかどうか、家に帰ってもういちど考えてみる。	-3.2090	.92257	.07970	-4.7854	-.16326	-4.026	133	.000
17	むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。	-2.4265	.95449	.08185	-4.4052	-.08078	-2.965	135	.004
18	学ぶことはおもしろいと思う。	-2.6471	.85406	.07323	-4.0954	-.11987	-3.614	135	.000
22	いろいろなことを学ぶことは楽しい。	-2.8030	.88511	.07704	-4.3271	-.12790	-3.638	131	.000
24	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。	-2.8244	.89679	.07835	-4.4375	-.12743	-3.605	130	.000
27	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	-1.9847	.79827	.06974	-3.3646	-.06049	-2.846	130	.005
28	普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている。	-1.18462	1.06228	.09317	-1.36895	-1.00028	-12.715	129	.000
29	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。	-2.6718	.80216	.07008	-4.40583	-.12852	-3.812	130	.000
30	普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている。	-2.93023	.88553	.07797	-4.08450	-.17596	-11.931	128	.000
33	社会の勉強は大切だ。	-2.2137	.87960	.07685	-3.7341	-.06933	-2.881	130	.005
34	社会の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。	-.162	.755	.066	-.293	-.030	-2.438	129	.016

質問項目24~31の協働的・双方向的な学びの状態や児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力について測定した8項目のうち、「25 自分の行動や発言に自信を持っています

表2 対応のあるサンプルの有意な差がある質問項目の平均値と標準偏差

no	質問項目	事前調査			第2回事後調査		
		度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
2	人の役に立てようになりたい。	140	3.3500	.80399	138	3.4348	.77324
5	むずかしい問題にであうとよりやる気がでる。	140	2.2143	.93521	138	2.4275	.99552
11	疑問に思うことは、わかるまで調べたい。	140	2.7571	.85555	137	2.9781	.84425
12	自分もっている能力をじゆうぶんにはつきしたい。	140	3.2214	.79629	138	3.4348	.77324
15	今までより、むずかしい問題にとりくむことが多い。	140	2.3929	.81969	138	2.6449	.97262
16	学校で勉強したことが正しいかどうか、家に帰ってもういちど考えてみる。	139	2.0504	.80148	137	2.3504	.85398
17	むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。	140	2.4071	.88062	138	2.6449	.96509
18	学ぶことはおもしろいと思う。	140	2.8857	.88216	138	3.1377	.82118
22	いろいろなことを学ぶことは楽しい。	136	3.0441	.88500	138	3.3043	.80698
24	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。	136	2.2868	.91009	137	2.5766	.93716
27	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	136	3.1691	.73591	137	3.3650	.73641
28	普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている。	136	1.8382	.77192	136	2.99	.882
29	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。	136	3.1544	.83337	137	3.3942	.68982
30	普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている。	135	2.4593	.75075	136	3.3676	.69718
33	社会の勉強は大切だ。	136	3.1765	.82446	137	3.4015	.79020
34	社会の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。	136	2.7941	.77093	136	2.9485	.73353
		133			123		

か」、「26 友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか」を除く6項目で平均値が増加している。

(4) 社会参画に関する意識の変容について

シティズンシップの育成と関連の深い質問項目で構成された「社会への関与」[質問項目(41)、(42)]と「地域・社会への関心」[質問項目(38)、(43)、(44)]の2因子に着目した。各因子間の相関分析を行い、ピアソンの積率相関係数を算出した結果、それぞれのすべての因子間において、1%水準で有意(両側)な正の相関が見られた(別表3)。他の因子との相関を図に示したのが、図7である。

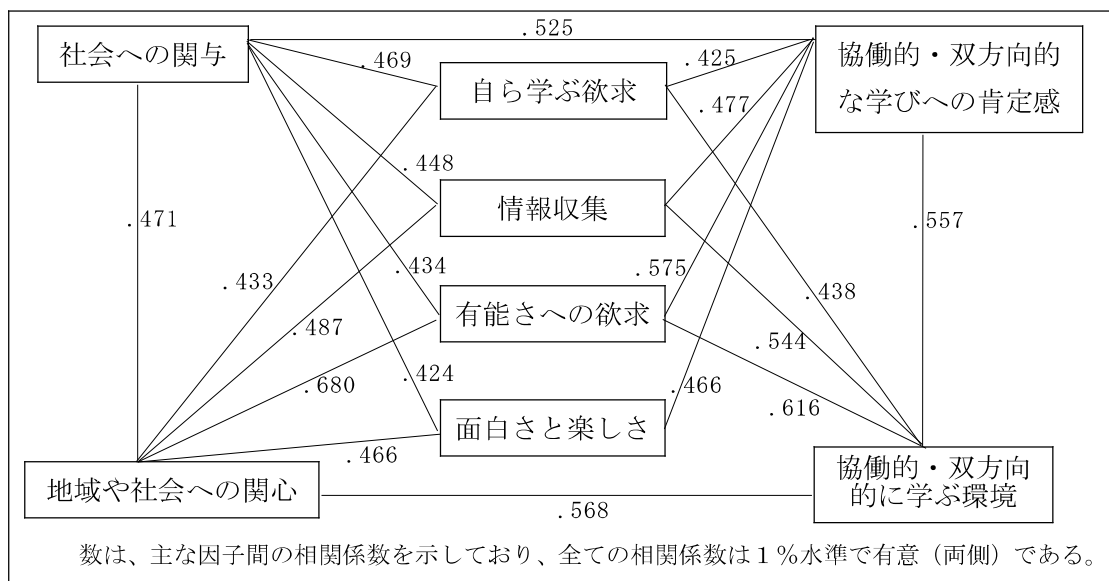


図7 「社会への関与」、「地域や社会への関心」等と他因子との相関図

「社会への関与」と最も強い相関を示しているのが、「協働的・双方向的な学びへの肯定感」で、次に「地域や社会への関心」、「自ら学ぶ意欲」と続き、いずれも中程度の相関が見られる。

「地域・社会への関心」と最も強い相関を示しているのが、「有能さへの欲求」で、次に「協働的・双方向的な学びへの肯定感」、「情報収集」と続き、こちらのいずれも中程度の相関が見られる。

この2因子がともに中程度の相関を示した「自ら学ぶ意欲」、「情報収集」、「有能さへの欲求」、「面白さと楽しさ」は、いずれの因子も、主体的・能動的な学びの様子を図る質問項目から構成されている。さらに「協働的・双方向的な学びへの肯定感」、「協働的・双方向的に学ぶ環境」の因子に対して、「自ら学ぶ意欲」、「情報収集」、「有能さへの欲求」は、中程度の相関を示している。

また、社会参画に関する意識を測るために第2回事後調査で追加した(43)・(44)の質問項目は、先の二度の調査と比較することができなかったため、4月に行われた全国学力学習状況調査の結果と比較を行った。今回の研究では、実施校の対象生徒が中学3年生の全員であったため、対象生徒の結果を比較することができた。研究対象の生徒の平均は、もともと奈良県及び全国平均を上回っていたが、「当てはまる」、「どちらかという、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合には、「43 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。」で+28.8ポイント、「44 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」で+43.5ポイントの差が認められた。

これらのことから、「協働的・双方向的に学ぶ環境」を整えて、「協働的・双方向的な学びへの肯定感」を高める指導を行うことで、社会科における主体的・能動的に学ぼうとする力を育み、さらに「社会への関与」、「地域・社会への関心」と深い関係があると考えられるシティズンシップの育成、つまり、社会に参画しようとする意識を高めたり、スキルを育成したりすることに効果を期待できるのではないかと考える。

(5) 効果的な協働的・双方向な授業の在り方について

表2で示した質問項目のうち、協働的・双方向的な学びと関係が深いと考えられる(27)、(28)、(29)、(30)の平均値が有意に増加していることから、研究期間に実施した授業に協働的・双方向的に学ぶ機会を取り入れていたことを生徒が認識していたことが認められた。

また、授業において、生徒の協働的・双方向的な学びが成立しているかについては、寺崎千秋(2010)がグループ別指導を充実させるための授業力に関わるルーブリック評価(図8)で示した4つの指標を参考にして授業の観察を行った。

- | |
|--|
| <p>I グループ別指導のよさや指導方法が身に付いていない。授業は一斉指導が中心で、グループの形態を取り入れることもあるが、指導は全体に向けた一斉型になっている。</p> <p>II 授業にグループ別指導を取り入れているが、教師の指示や説明でやらされている活動になっており、グループ別活動の状況はグループにより差が大きかったり、活動が停滞したりすることがある。</p> <p>III 授業にグループ別指導を取り入れて、一人ひとりの子どもが積極的に学習したり、課題別に学習に取り組んだりなどや、協力したり助け合ったりして学習を進めるなどして、子どもの学習意欲や主体的な学習の進め方をはぐくんでいる。</p> <p>IV グループ別指導の充実の結果、一人ひとりの子どもがグループでの学習の進め方を身に付け、学習課題に応じた主体的なグループ学習を進めることができるようになっている。</p> |
|--|

図8 グループ別指導を充実させるための授業力に関わるルーブリック評価

研究当初に実施したグループ学習を取り入れた授業では、ルーブリック評価の「II 授業にグループ別指導を取り入れているが、教師の指示や説明でやらされている活動になっており、グループ別活動の状況はグループにより差が大きかったり、活動が停滞したりすることがある。」に該当すると考えられた。

5月初めでクラス替えによる人間関係が定まっていない段階であったことも大きな要因と考えられるが、生徒が指示を受けたことをこなしているだけの感が強く、生徒から出てくる意見もグループ間で差違も少なかった。また活動に参加できていない生徒も一部見られた。

授業の進め方では、課題の設定や話合いの時間配分等が原因で、グループでまとめた意見を発表させたり、個人で振り返らせたりする時間が十分もてないこともあった。

そこで、研究を進める中で、グループ学習を効果的なものにするため、以下の点に留意した。

- ① 単元指導の適切なタイミングと時間配分で効果的な課題をグループで学習させる。
- ② グループ学習に入る前に、個人で考えさせたり、調査を行ったりする。
- ③ グループ学習の後で、個人の考えを整理する時間を設ける。
- ④ グループで進行役を決め、全員の発言を促させ、また各意見に対する意見を述べさせる。
- ⑤ 個人の考えやグループ、クラス全体の発表の場に出た意見をメモさせ、話合いの要点を整理させる。

以上の点に留意しながら、グループ学習を繰り返したことで、生徒は自らの意見を述べたり、他者の意見に対する意見を述べたりすることに心理的な抵抗が少なくなってきたように思われた。また、自分の意見を整理して発言することや他人の意見に対して意見を述べることも活発に

行われるようになった。

さらに全体の場合での発表等においても、課題に即した意見が活発に交わされるようになった。一方で発言できなかった生徒についてもワークシートの記述から、聞き取った他者の意見によって自分の意見が再構築されていったことを認識している記述が散見された。

このように研究員の授業における生徒のグループ学習での学習状況は、寺崎のルーブリック評価（図8）の「Ⅲ 授業にグループ別指導を取り入れて、一人ひとりの子どもが積極的に学習したり、課題別に学習に取り組んだりなどや、協力したり助け合ったりして学習を進めるなどして、子どもの学習意欲や主体的な学習の進め方をはぐくんでいる。」の段階に進み、一部のグループでは「Ⅳ グループ別指導の充実の結果、一人ひとりの子どもがグループでの学習の進め方を身に付け、学習課題に応じた主体的なグループ学習を進めることができるようになっている。」という段階に進んだものとする。

5 おわりに

今回の研究で、単元計画の適切な時期に、シティズンシップの育成に関わる適切な題材を用いて、「協働的・双方向的な学び」を取り入れることで、生徒の主体的・能動的に学ぼうとする力を育み、さらには、社会に参画しようとする意識を高めたり、スキルを育成したりする効果があるという可能性が認められたと考える。

ただし、それには協働的・双方向的に学ぶ環境づくりが前提となる。生徒が効果的に活発な話し合い活動を行うためには一朝一夕の指導では不可能であり、中長期的な見通しをもった指導計画が必要となる。さらには3年間の指導計画のもとで、教科の学習を通じてどのような力を育んでいくのかを明確にした上で、その力を育成するため、グループ活動の在り方について研究を進めていくことが求められる。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』
- (2) 『平成26年版 子ども・若者白書』（2014） 内閣府 p. 82 pp. 111-114
- (3) 「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書」（2006） 経済産業省 委託先：株式会社三菱総合研究所 p. 24
- (4) DVD 「裁判員制度—もしもあなたが選ばれたら—」（2005） 法務省
- (5) 法務省 Webサイト「法務省 裁判員制度コーナー」教師用解説資料、教材、教師用参考資料 http://www.moj.go.jp/keijil/saibanin_info_saibanin_kyozai.html
- (6) 斑鳩町 「斑鳩町統計書 平成25年度版（2013年度）」（2013）
- (7) 斑鳩町 「第4次斑鳩町総合計画 概要版」（2011）
- (8) 寺崎千秋 『新教育課程完全実施の授業力更新—力量が向上・充実する33の方法』（2010） 明治図書 p. 82
- (9) 櫻井茂男（2009）『自ら学ぶ意欲の心理学』 キャリア発達の視点を加えて 有斐閣

別表 1 因子分析後の因子負荷量

	因子											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Cronbach の α 値	0.869	0.757	0.757	0.716	0.769	0.721	0.724	0.783	0.744	0.692	0.719	0.685
(第一因子 自ら学ぼうとする意欲)												
4 自分から勉強にとりこんでいる。	.684	-.139	.134	-.008	-.055	.108	-.039	.165	-.019	-.079	.075	.069
6 問題のときはいくつか考えることにしている。	.664	.025	-.076	.062	.037	-.260	-.110	-.143	.076	.165	.156	.174
5 むずかしい問題にであつたりやる気がでる。	.654	.012	.136	-.015	.021	-.168	.086	-.084	.122	.117	.042	.061
15 今までより、むずかしい問題にとりくむことが多い。	.641	.096	-.021	.019	-.073	.140	.229	-.050	-.112	.149	-.001	-.111
14 テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。	.532	.019	-.230	.051	-.046	.168	.266	.063	-.005	.078	-.009	-.024
16 学校で勉強したことが正しいかどうか、家に帰ってもういちど考えてみる。	.442	-.034	.015	.274	.009	.309	-.007	-.069	.027	.113	.134	-.140
(第二因子 表現に対する自信)												
24 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。	-.046	.799	.123	.098	.023	-.020	-.094	-.014	-.021	.052	.028	.018
25 自分の行動や発言に自信を持っている。	.059	.568	.028	-.044	.042	-.046	.064	-.194	.136	.139	.238	-.100
26 友達に伝えたいことをうまく伝えることができる。	-.048	.543	.151	.008	-.013	.008	.098	-.166	.150	.035	.087	-.013
31 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。	.083	.499	-.208	.243	-.068	-.086	.153	.030	-.016	-.098	-.124	-.109
36 話し合う活動では、しっかりと自分の意見を発表している。	.011	.475	-.105	-.132	.329	-.011	.122	.164	.015	-.226	.143	.072
(第三因子 情報収集)												
3 わからないことはとことん調べている。	.143	-.075	.877	-.014	-.005	.033	-.087	-.110	.070	-.137	.093	.011
1 興味のあることは、とことん調べたい。	-.165	.145	.669	.071	-.185	-.008	.030	.025	.068	.158	-.127	.165
13 興味のあることは調べずにはいられない。	-.131	.108	.441	.124	-.018	.107	.042	-.087	-.046	-.001	.269	.107
10 授業でわからないことがあると、先生に質問できる。	.153	.097	.417	.010	.137	.149	.207	.060	-.281	-.173	.044	-.073
(第四因子 社会への関与)												
41 社会をよりよくするため、社会問題に関与したい。	.017	.079	.085	.725	-.077	.081	.098	.050	.097	-.051	.027	-.002
42 自分の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない。	.160	.046	.024	.668	.134	.151	-.162	.080	-.028	-.178	.071	.152
(第五因子 協働的・双方向的な学びへの肯定感)												
35 意見を発表することで、自分の考えが深まることもある。	.031	.097	-.053	-.027	.735	-.206	-.163	.108	-.057	.175	.042	.097
39 グループ学習など、意見を発表しあう学習の機会は、増やしてほしいと思う。	-.107	-.007	-.078	.185	.663	.274	-.193	-.131	.144	-.160	-.092	.153
37 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	-.008	-.071	.039	-.029	.523	-.062	.405	.016	.111	-.127	.034	.043
40 自分が意見を発表することで、他の人の考えが深まったり、広がったりしていると思う。	-.117	.120	-.036	.385	.391	.110	.007	.057	-.074	.237	.086	-.103
(第六因子 協働的・双方向的に学ぶ環境)												
28 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている。	.071	.051	.015	.136	-.089	.637	-.087	.028	-.013	-.155	-.153	-.073
30 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている。	-.225	-.108	.122	.027	.078	.520	.149	.038	-.069	.116	.106	.048
29 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。	.044	.307	.027	-.063	-.047	.513	-.137	.211	-.027	.220	-.214	.267
23 学校ではおちついて授業をうけている。	.063	-.285	-.090	.028	.035	.399	.027	-.041	.145	.153	.195	-.140
20 授業でわからないことがあると、クラスの友だちにきくことができる。	.161	-.103	.288	-.102	.250	.398	.061	-.005	.017	.024	-.096	-.054
(第七因子 有能さへの欲求)												
12 自分も持っている能力をじゅうぶんにはききたい。	.133	.088	.017	-.092	-.179	.022	.772	.042	.096	-.179	.026	-.096
2 人の役に立てるようになりたい人間になりたい。	.269	-.001	.101	.183	-.019	-.128	.628	-.033	.062	-.066	-.255	.047
34 社会の授業で自分の考えを書きとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。	-.112	.009	-.163	.178	-.044	.003	.520	.096	.019	-.051	.383	-.052
27 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	.035	.037	-.065	-.203	.196	.309	.325	-.263	.148	.079	-.093	.166
(第八因子 社会科に対する学習意欲)												
33 社会の勉強は大切だ。	-.037	-.107	-.133	.035	.062	.005	.191	.735	.100	.158	-.074	-.007
32 社会の勉強は好きだ。	-.009	-.009	-.019	.085	-.059	.053	-.133	.717	.135	.005	.142	.086
(第九因子 面白さと楽しさ)												
22 いろいろなことを学ぶことは楽しい。	.080	-.021	.033	.103	.066	.018	.058	.103	.700	-.068	-.019	.122
18 学ぶことはおもしろいと思う。	-.010	.165	-.026	-.072	-.017	.052	.222	.141	.626	-.006	-.001	-.026
8 新しいことを学ぶのはおもしろいと思わない。	-.073	.023	.205	.037	.216	-.174	-.024	.377	.441	.091	-.087	-.182
(第十因子 独立達成)												
17 むずかしい問題にであつても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。	.168	.011	-.071	-.032	-.108	.000	-.214	.075	.025	.908	.046	.035
7 ひとりで解決できることは、できるだけひとりでしている。	.252	-.026	.051	-.173	.199	-.111	-.050	.120	-.122	.574	-.011	-.043
(第十一因子 有能感)												
9 友だちに質問されても、ほとんどのことはうまく答えられる。	.130	.105	.119	.022	.061	-.228	-.008	-.020	-.107	.070	.744	-.073
19 勉強面では友だちからたよられていると思う。	.297	.055	-.050	.012	-.035	.099	-.160	.069	.124	-.046	.474	.009
11 疑問に思うことは、わかるまで調べたい。	.056	-.067	.178	-.062	-.216	-.065	.274	.235	.007	.023	.397	.310
(第十二因子 地域や社会への関心)												
43 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	.006	-.101	.234	.174	.061	-.079	-.091	.025	.084	.057	-.083	.614
38 他の人の意見を聞いて、それに対する自分の意見を発表している。	.078	.091	-.096	-.069	.412	-.017	-.037	.015	-.029	-.133	.054	.579
44 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	.015	-.088	-.035	.388	.141	-.170	.327	-.065	-.115	.128	-.081	.426

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

a. 15回の反復で回転が収束しました。

別表2 12の因子構造と質問項目

	因子名	質問 番号	質問項目	(参考)櫻井茂男により 分類された因子名
第一因子	自ら学ぼうとする意欲	4 6 5 15 14 16	自分から勉強にとりこんでいる。 問題のとき方はいくつか考えることにしている。 むずかしい問題にであつてもよりやる気がでる。 今までより、むずかしい問題にとりむくことが多い。 テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。 学校で勉強したことが正しいかどうか、家に帰ってもういちど考えてみる。	自発学習 深い思考 挑戦行動 挑戦行動 自発学習 深い思考
第二因子	表現に対する自信	24 25 26 31 36	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。 自分の行動や発言に自信を持っている。 友達に伝えたいことをうまく伝えることができる。 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。 話し合う活動では、しっかりと自分の意見を発表している。	
第三因子	情報収集	3 1 13 10	わからないことはとことん調べている。 興味のあることは、とことん調べたい。 興味のあることは調べずにはいられない。 授業でわからないことがあると、先生に質問できる。	情報収集 知的好奇心 情報収集 安心して学べる環境
第四因子	社会への関与	41 42	社会をよりよくするため、社会問題に関与したい。 自分の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない。	
第五因子	協働的・双方向的な学びへの肯定感	35 39 37 40	意見を発表することで、自分の考えが深まることがある。 グループ学習など、意見を発表しあう学習の機会は、増えて欲しいと思う。 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 自分が意見を発表することで、他の人の考えが深まったり、広がったりしていると思う。	
第六因子	協働的・双方向的に学ぶ環境	28 30 29 23 20	普通の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている。 普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている。 普通の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。 学校ではおちついて授業をうけている。 授業でわからないことがあると、クラスの友だちにきくことができる。	安心して学べる環境 安心して学べる環境
第七因子	有能さへの欲求	12 2 34 27	自分もっている能力をじゅうぶんにはつきしたい。 人の役に立てるようになりたい。 社会の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	有能さへの欲求 有能さへの欲求
第八因子	社会科に対する学習意欲	33 32	社会の勉強は大切だ。 社会の勉強は好きだ。	
第九因子	面白さと楽しさ	22 18 8	いろいろなことを学ぶことは楽しい。 学ぶことはおもしろいと思う。 新しいことを学ぶのはおもしろいと思わない。	面白さと楽しさ 面白さと楽しさ 面白さと楽しさ
第十因子	独立達成	17 7	むずかしい問題にであつても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。 ひとりで解決できることは、できるだけひとりでしている。	独立達成 独立達成
第十一因子	有能感	9 19 11	友だちに質問されても、ほとんどのことはうまく答えられる。 勉強面では友だちからたよられていると思う。 疑問に思うことは、わかるまで調べたい。	有能感 有能感 知的的好奇心
第十二因子	地域や社会への関心	43 38 44	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか 他の人の意見を聞いて、それに対する自分の意見を発表している。 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	

別表3 12の因子間の相関係数

	自ら学ぶ意欲	表現に対する自信	情報収集	社会への関与	協働的・双方向的な学びへの肯定感	協働的・双方向的に学ぶ環境	有能さへの欲求	社会科に対する学習意欲	面白さ楽しさ	独立達成	有能感	地域や社会への関心
1 自ら学ぶ意欲	1	.413**	.526**	.469**	.425**	.438**	.594**	.403**	.475**	.526**	.585**	.433**
		.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	137	135	136	136	136	134	136	136	137	137	134	130
2 表現に対する自信	.413**	1	.483**	.376**	.519**	.346**	.481**	.351**	.458**	.304**	.503**	.468**
	.000		.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	135	136	135	136	136	134	136	136	136	136	133	130
3 情報収集	.526**	.483**	1	.448**	.477**	.544**	.542**	.408**	.448**	.306**	.550**	.487**
	.000	.000		.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	136	135	137	136	136	134	136	136	137	137	134	130
4 社会への関与	.469**	.376**	.448**	1	.525**	.325**	.434**	.456**	.426**	.178*	.373**	.471**
	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000	.000	.038	.000	.000
	136	136	136	137	137	135	137	137	137	137	134	131
5 協働的・双方向的な学びへの肯定感	.425**	.519**	.477**	.525**	1	.557**	.575**	.408**	.466**	.323**	.370**	.568**
	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	136	136	136	137	137	135	137	137	137	137	134	131
6 協働的・双方向的に学ぶ環境	.438**	.346**	.544**	.325**	.557**	1	.616**	.391**	.389**	.357**	.425**	.374**
	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000	.000	.000
	134	134	134	135	135	135	135	135	135	135	133	129
7 有能さへの欲求	.594**	.481**	.542**	.434**	.575**	.616**	1	.605**	.571**	.429**	.449**	.580**
	.000	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000	.000
	136	136	136	137	137	135	137	137	137	137	134	131
8 社会科に対する学習意欲	.403**	.351**	.408**	.456**	.408**	.391**	.605**	1	.576**	.379**	.475**	.460**
	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000
	136	136	136	137	137	135	137	137	137	137	134	131
9 面白さ楽しさ	.475**	.458**	.448**	.426**	.466**	.389**	.571**	.576**	1	.416**	.511**	.455**
	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000
	137	136	137	137	137	135	137	137	138	138	135	131
10 独立達成	.526**	.304**	.306**	.178*	.323**	.357**	.429**	.379**	.416**	1	.437**	.312**
	.000	.000	.000	.038	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000
	137	136	137	137	137	135	137	137	138	138	135	131
11 有能感	.585**	.503**	.550**	.373**	.370**	.425**	.449**	.475**	.511**	.437**	1	.403**
	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000		.000
	134	133	134	134	134	133	134	134	135	135	135	128
12 地域や社会への関心	.433**	.468**	.487**	.471**	.568**	.374**	.580**	.460**	.455**	.312**	.403**	1
	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	
	130	130	130	131	131	129	131	131	131	131	128	131

※それぞれの枠内の数は以下の通り

Pearsonの相関係数	**.	相関係数は1%水準で有意（両側）です。
有意確率（両側）	*.	相関係数は5%水準で有意（両側）です。
N		